

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の流行が収まらないために、学習活動や行事において今年度も感染拡大防止のための制限が必要であった。より充実した活動や行事の在り方について職員間で話し合いや工夫を重ね、コロナ禍における取組としては、令和2年度よりも充実してきたと考える。学校評価としては、前年度同様もしくは前年度より下回る評価もあるが、より高い目標を掲げた結果であったり、同様の評価でも取組においては前進していたり、成果目標はおおむね達成できたと考える。 前年度は、校務分掌を部会制とした。その結果、職員間で校務分掌について共有化する機会が増えた。また、会議においては、部会での事前検討によって練り上げられた提案がされることで内容精選や時間短縮につながった。職員分担の平準化、次年度への引継ぎにおいても効果的であった。 年間を通して、達成度がB評価だった項目については、職員で知恵を出し合いながらより高い成果が出せるように推進していきたい。
------------------	---

2 学校教育目標	「共に学び 心豊かに たくましく 生きる」児童の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びへ向けた授業改善を図る。 思いやりの心や豊かな心を基盤とした学校づくりを行う。 特別支援教育において校内支援体制や個に応じた指導の充実を図る。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 いじめの早期発見、早期対応体制の充実 夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組む児童を育成するための教育活動 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳に関するアンケート「ほかほか言葉を使って友達と仲良くしていますか」の質問で、80%以上の児童が肯定的な回答をする。 いじめの早期発見、早期対応について組織的対応ができていると回答した教師80%以上。 「将来の夢や希望を持っている」と答えた6年生児童80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権週間や道徳の授業実践において、児童が人としての生き方を考えるきっかけとなる内容を盛り込む。 友だちのよいところや頑張りを見つける活動に取り組ませる。 気になる児童の様子やいじめの対応について、事例研修等を含めた研修や会議を毎学期行い、いじめに対する職員の意識や組織力を高める。 行事や体験活動において、活動への見通しを持たせたり、キャリアパスポート等を用いて学びの振り返りを行わせたりする。 児童生徒の、資質・能力を育む授業づくりを行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人権週間や道徳の授業実践を行い、家庭でも考えてもらうきっかけとなるようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートでは、友達と仲良く過ごしている項目で90%以上の児童が肯定的な回答をしていた。 友達とのよき関係の活動を取り組み、掲示したり、発表をしたりして相手に伝えていた。学年によっては同じクラスの児童にだけでなく、異学年の相手に向けても行うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 人と人とのつながりは、まず、挨拶。自分から地域の方へ挨拶ができるようになってほしい。 感染症による長期にわたる制限のため子どもたちは不自由な思いをしている。徐々に自由な生活、交流の機会を取り戻してほしい。 	心づくり部会
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 運動習慣の改善や定着化 安全に関する資質・能力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> 「健康に食事は大切である」と考える児童生徒80%以上。 バランスのとれた食事が必要であると考える児童80%以上。 	<ul style="list-style-type: none"> 栄養教諭や養護教諭と連携し、望ましい食習慣と食の自己管理能力についての授業を全学年で行う。 体育委員会でスポーツ大会などを企画する。 毎月1回運営委員会児童が放送で全校に呼びかけるとともに学期ごとにアンケートを集計する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 毎週、生徒指導担当を中心に、問題事案についての報告・共有を行い、対応について検討している。 毎月、いじめに関するアンケートを取り、管理職や関係学年等で情報共有することでの未然防止に努めている。 行事においては、それぞれの学年で練習や準備の見通しをもたせたり、目標を立てさせたりした。また、行事ごとにキャリアパスポート等を用いて、振り返りを行い、成長したことを実感させたり、今後につなげていくような声かけをしったりするようにした。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「将来の夢や希望を持っている」と答えた児童80%以上を達成することができた。 学年によっては、マナー教室で将来の夢についての考えさせたり、ゲストティーチャーを招き夢についての授業を行った。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 「将来、自分が何になりたいかについて、対話することが必要だと思う。」 授業参観での将来の夢についての発表を聞いて、みんな、しっかりと夢を持っていて、素晴らしい 	心づくり部会
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> 業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> 教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 	<ul style="list-style-type: none"> 定時退勤日を設定し守る。 行事や会議の精選・効率化、時間短縮を進める。 校務分掌の見直しを進め、職員の仕事分担の平準化を目指す。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 体育委員会で、まだ全学年取り組めてはいない。 体育委員会でドッチボール大会を実施し、多くの児童が参加した。また、多くの児童が外で遊んでいる。 ヘルメットの着用率は88%、防犯ブザーの所持率は87%で、いずれも90%に満たなかった。学校全体や学級において、定期的呼び掛けをして、90%以上を目標とするようにした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間の元気な様子を見ていて、学年関係なくボール遊びなどをしていて、健康な体と心が育っていると感じた。 ヘルメット着用も防犯ブザーも目標を達成できているのは良い。今後も声掛けを続けてほしい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 早寝、早起き、朝ごはんの習慣と三食ともきちんと食べる習慣が身につくようにしてほしい。 バランスのとれた食事が大切だという知識が身につけているのは良い。毎日、好き嫌いをなく食べることを実践していくことが必要である。 	体づくり部会
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価		意見や提言
<ul style="list-style-type: none"> ●…県共通 ★…鳥栖市共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や支援会議、担任会議を実施したり、複数で児童に対応したりするなどして教員の専門性を高めることができた。 交流学級全クラスで、児童理解授業を実施し、全校児童への啓発をすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修会や支援会議、担任会議を実施したり、複数で児童に対応したりするなどして教員の専門性を高めることができた。 交流学級全クラスで、児童理解授業を実施し、全校児童への啓発をすることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある子どもの学校生活支援事業巡回相談員派遣を申請し、指導・助言を受けることにより指導の質の向上を図った。 特に配慮が必要な児童に関しては積極的にケース会議を開き、児童に寄り添った対応の仕方を協議し実践することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育に関する研修等で、教員の見識を高めるとともに、全校児童への啓発も行う必要がある。 児童の実態をきちんと把握することが必要。 	心づくり部会		

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価の重点取組の成果指標達成のため、3つの指導部会を中心に全職員で具体的な取組を進めることができた。指導部会での検討は、会議内容の精選や時間短縮につながった。職員分担の平準化、次年度への引継ぎにおいても効果的であったが、部長などの一部の職員に業務が偏らないよう今後も見直しをして改善を図っていく必要がある。 今年度も感染症対策のために学習活動や行事において制限を加えることがあった。今後は、アフターコロナを視野に入れながら、より充実した活動や行事の在り方について職員間で話し合いや工夫を重ねていく必要がある。 学校評価としては、前年度同様もしくは前年度より下回る評価もあるが、より高い目標を掲げた結果であったり、同様の評価でも取組においては前進していたり、成果目標はおおむね達成できたと考える。 年間を通して、達成度がB評価の項目については、職員で知恵を出し合いながらより高い成果が出せるように推進していきたい。
----------------	---